

令和5年度

宮崎国際大学入学者選抜試験問題

国

語

国際教養学部

教育学部

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて29ページあります。(問題は2ページからです。)
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れなどがあった場合には、直ちに手を上げて監督者に申し出てください。
4. 試験開始後、解答用紙の所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入してください。
5. 解答は、問題ごとに、解答用紙の指定された箇所に記入してください。
6. 時間内に解答し終わっても、退出することはできません。
7. 試験中に質問等があるときは、黙って手を上げて監督者を呼んでください。
8. 不正行為について
  - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
  - ②不正行為があった場合、その時点で受験を取り止めさせ、退室させます。
9. 問題冊子は、試験終了後持ち帰ってください。

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の文の傍線部A、Bのカタカナに該当する漢字の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

兄は一風変わった<sup>A</sup>ヘンクツな性格で、父親からすごい<sup>B</sup>ケンマクで怒られることが度々あった。

- |   |        |        |
|---|--------|--------|
| ア | A   片屈 | B   見膜 |
| イ | A   偏屈 | B   劍幕 |
| ウ | A   変屈 | B   劍幕 |
| エ | A   片屈 | B   陰莫 |
| オ | A   偏屈 | B   陰莫 |
| カ | A   変屈 | B   見膜 |

問二 次の文の傍線部A、Bの漢字に該当する読みの最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

大臣が各地で<sup>A</sup>遊説を行い、法令を<sup>B</sup>遵守することを強調した。

- |   |          |          |
|---|----------|----------|
| ア | A   ユウゼツ | B   ソンジュ |
|---|----------|----------|

- |   |        |         |
|---|--------|---------|
| イ | Aーユウセツ | Bージユンシユ |
| ウ | Aーユウゼイ | Bーソンジユ  |
| エ | Aーユウゼツ | Bーソンシユ  |
| オ | Aーユウゼイ | Bージユンシユ |
| カ | Aーユウセツ | Bーソンシユ  |

問三 次の文の空欄に入る慣用句として最も適切なものを、あとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

姉は周囲の出来事に何でも（ ）ので、忙しい日々を送っている。

- ア 首を横に振る
- イ 首を長くする
- ウ 首がつながる
- エ 首が回らない
- オ 首を傾げる
- カ 首を突っ込む

問四 次の文の傍線部の内容を最も適切に言い表す四字熟語を、あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

アメリカに渡った選手は、これまでに例のないこれから先もできないと思われる活躍をした。

- ア 空前絶後
- イ 言語道断
- ウ 千載一遇
- エ 明鏡止水
- オ 未来永劫えいごう

問五 次の文の空欄（ A ）に該当する作家名と（ B ）に該当する作品名の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

人道主義を掲げ、雑誌『白樺』しらかばを拠点として活躍した（ A ）は、作家活動だけでなく、理想郷を目指して「新しき村」を創設した。大正時代の文壇の中心的存在で、自我の尊重や自己肯定を作品に反映し、『お目出たき人』、『幸福者』、『（ B ）』などの作品がある。

- ア A—島崎藤村                      B—夜明け前
- イ A—島崎藤村                      B—父帰る

- ウ A―武者小路実篤 B―友情  
 エ A―武者小路実篤 B―和解  
 オ A―太宰治 B―ヴィヨンの妻  
 カ A―太宰治 B―山椒魚さんしやうお

問六 次の文の傍線部A、Bを正しい敬語で言い換える場合の最も適切な組み合わせを、あとのア～カから一つ選び、記号で答えなさい。

お客様が会場を A 聞いたら、会場の入り口まで B 連れて行つてください。

- ア A―伺われた B―お連れになって  
 イ A―お聞きになった B―ご同行なさって  
 ウ A―お尋ねした B―ご案内して  
 エ A―伺った B―お連れになって  
 オ A―お聞きした B―ご同行なさって  
 カ A―お尋ねになった B―ご案内して

問七 次の文の傍線部をわかりやすい表現で言い換えるとどうなるか。最も適切なものを、あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

倒産の危機に陥った会社は、窮余の一策を講じて、何とか経営を立て直した。

- ア 最善の方法を速やかに実行して
- イ 改善の余地のない窮状を訴えて
- ウ 事態が好転するのを待つて
- エ 苦し紛れに思いついた対策をとって
- オ 状況を打開する策略をあれこれ練って

問八 次の文の傍線部の言い換えとして最も適切なものを、あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

地球規模のエネルギー問題解決のために、化石燃料への依存からパラダイムを変換することが求められている。

- ア 特定の時代や分野において強力に推し進められる方法
- イ ある時代や分野において特別に実施される方法
- ウ ある時代や分野において支配的な物の見方や捉え方
- エ 複数の時代や分野において支持される物の捉え方

オ 複数の時代や分野において普遍的な考え方

問九 次の文の傍線部を簡潔に言い換えるとなどうか。最も適切なものを、あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

河川の形状の変化と大規模な洪水の因果関係を明らかにする。

- ア 因果と応報の関係について調べる
- イ 二つの似通った関係から原因を追究する
- ウ 原因を究明して成果に導く
- エ 原因と結果の関係について究明する
- オ 因果がどのような性質の関係であるか調べる

問十 次の文の空欄（ A ） ～ （ D ） にあてはまる語句の最も適切な組み合わせを、あとのア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

平仮名を漢字で表記する場合には、どの漢字が適切か迷うことが多い。たとえば、「あける」を漢字で書く場合、意味によって使い分けなければならない。「店を開ける」はすぐに漢字を思いつくが、「喪が（ A ）」「間を（ B ）」は

難しい。同様に「あらわす」についても「本を著す」「本性を（C）」「喜びを（D）」を書き分ける必要がある。

ア	A   明ける	B   空ける	C   表す	D   現す
イ	A   開ける	B   空ける	C   表す	D   現す
ウ	A   明ける	B   空ける	C   現す	D   表す
エ	A   空ける	B   開ける	C   現す	D   表す
オ	A   空ける	B   明ける	C   表す	D   現す



二 一次の文章は小川洋子の小説「風薫るウィーンの旅六日間」の冒頭の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【風薫るウィーンの旅六日間・フリープランタイプ】の同行者十四名のうち、単身の参加は私と琴子さん二人だけなので、私たちがホテルで同室になるのは当然の成り行きだった。琴さんは六十代半ばの、とてもよく太った未亡人である。

「躰がうるさかったら、ごめんなさい」

ウィーンに到着した最初の夜、琴さんはベッドの上に正座して頭を下げ、それ以外に余計なことは何も言わず、早々に寝る体勢に入った。

こういう年頃のおばさんはお喋りに決まっていると思いでいたが、琴さんは違った。空港の待合室でもホテルのロビーでも、心浮き立つ皆の輪から少し離れたところに、一人ぼつんと立っていた。何かの間違いでそこへ紛れ込んでしまったかのよううで、居心地が悪そうだった。はち切れんばかりのビニール製の茶色いカバンを斜め掛けにし、肩紐をしっかりと握り締めていた。<sup>(a)</sup> 初めての海外旅行という以外、私たちに共通点はなさそうだった。

もつとも、明日から帰国の日までずっと自由行動なのだから、同室者と親しくなる必要はなかった。せっかくウィーンまで来て、孫の自慢やお嫁さんの悪口など聞きたくはないし、私生活について あれこれ詮索されるのも面倒だ。 私にとっては、家庭教師のアルバイト代をこつこつ貯金してようやく実現した、二十歳の記念旅行だった。

正座した琴さんは、そのベッドのために特別にあつらえた、礼儀正しい置物のように見える。顔は丸く、二重三重になった顎は首に埋まり、お椀状に突き出たお腹の上に、乳房が垂れ下がっている。目蓋、耳、肩、背中、膝、指、体中のあらゆる場所に等しく脂肪が付き、それぞれに独自の曲線を生み出している。枕元には、体型と 対をなすかのごとくに膨らんだカバンが転がっていた。

確かに琴さんは躰をかいたが、その響きはほとんど寝息と変わらないくらいに遠慮がちだったので、私もすぐに眠りに落ちることができた。

次の朝、出掛ける支度をしている私のそばで、琴子さんはまたベッドの上に正座していた。カバンから地図を取り出して眺めたり、ため息をついたり、一度脱いだカーディガンを再び羽織ったりしながら、いつまでもぐずぐずしていた。

「あとう……」

(b) うつむいたまま琴子さんがつぶやいた。

「ホテルの名前を、ここへ書いていただくわけにはいきませんかでしょうか」

そうやって、てのひら掌を私に向けて差し出してきた。

「もし迷子になって、帰れなくなったら困ります。アルファベットは難しくくて、よく分かりません。お恥ずかしい話ですが……」

琴子さんは丸い体を更に丸めてスプリングをまき軋ませた。

「だったら、ここにメモ用紙が……」

電話の脇に手をのぼそうとする私を制し、彼女は更に力一杯掌を広げた。

「いいえ。そんな紙切れではいつ無くしてしまうか分かりません。ここなら間違いありません。ここに書いておくのが一番です」  
掌もやはり、たっぷり脂肪に覆われていた。私はそこに油性ペンで、“König von Ungarn”と書いてあげた。正直に言うと、自分もそのややこしいホテルの名前をきちんと発音する自信はなかった。ペン先が柔らかい脂肪に埋もれてゆく感触が、気持ち良かった。

琴子さんはしばらく自分の掌を見つめ、油性ペンの跡を指でなぞっていたが、まだ何か不安があるらしく、もぞもぞと落ち着かない。そっと顔を上げ、私と目が合うと、慌ててまたうつむく。他にも頼み事があるのに、言い出せないでいるのを、どうかして私に悟らせようと苦心している様子だった。

「今日はこれから、どちらへ？」

(c) そんなことを知りたかった訳でもないのに、思わず問い掛けてしまったのが、すべての間違いの始まりだった。

琴子さんがウィーンまでやって来た理由はただ一つ、養老院の付属病院で死の床についている昔の恋人に、会うことだった。<sup>(d)</sup>昔の恋人、などというロマンティックな言葉が、彼女の口から飛び出してくるとは思いもしなかったので驚いた。

最初は市電のターミナル、ショッテントーア駅まで連れて行ってあげて、そこで別れるつもりだった。彼女の説明によれば、目指す養老院はショッテントーア駅から38番の市電に乗り、グリーン何とかという駅で降りればよいのだった。

「あれが、38番ですよ。車体に大きく書いてあるでしょう。あれに乗って、真つすぐ行けばいいんです。それだけのことです」  
「はあ……」

指差す私の腕につかまったまま、琴子さんはいつこうに離れようとしなない。ビニールのカバンとお腹の肉を、ぐいぐいとこちらに押しつけてくる。

「乗り過ぎたらどうしましょう。やっぱり、駅の名前もアルファベットで書いてあるんですよ。当然です。ここはオーストリアなんですから。我儘は言えません。養老院までの道は誰に尋ねたらいいんでしょう。実は私、あまり心臓が丈夫じゃないもので、こうして人込みに立っているだけで、動悸がしてきました。いえいえ、ご心配には及びません。いつものことで慣れております。ところで、あなたの分の電車賃はここにあるんですよ。これで行き帰りの切符代に足りませんでしょうか。ええもちろん、お釣りは取っておいて下さって結構なんです」

無理矢理琴子さんは、お札を一枚私のポケットに押し込んだ。広げてみると、フロイトの顔も判別できないほど皺だらけになった五十リング札だった。確かにこれだけあれば、電車賃には足りるだろうと、<sup>(e)</sup>私はしなくてもいいはずの計算をしていた。そうしている間にも、彼女はますますびったりと体を寄せてくる。38番は、今にも出発しそうになっている。

「乗り遅れますよ。さあ、行きましょう」

半分呆れながら、半分仕方なく、私は琴子さんと一緒に市電に乗り込んだ。

心臓の悪い、アルファベットの読めない未亡人に同情して、半日はかり付き合っただけとしても、罰は当たらないだろう。置き去りにして気まずい思いをするよりは、親切にした方がこちらだって気分がいいに決まっている。と、車中、私は自分を納

得させるための言い訳を考えた。

(f) 琴子さんはやれやれこれで安心、といった晴れやかな表情になり、しかし一方油断は禁物とばかり、私の腕は放さないままでいる。時折、カバンからガムやチョコレートやおかきを取り出してはしきりに勧める。喉が渴けばペットボトル、風が吹けば櫛、咳をすれば喉スプレー。カバンの中からは、私の機嫌を取るための道具が次から次へと出てくる。

しかしその時にもまだ私は、午後になったらシユテファン大聖堂を見物しよう、モーツァルトの像の前で写真を撮ろう、カフェでザッハートルテを食べよう、などとあれこれ心積もりをしていたのだった。

道すがら琴子さんが話して聞かせてくれた、昔の恋人にまつわる事情は、そう複雑なものではなかった。四十五年前、十九歳の琴子さんは食品会社のハム製造工場に勤めていた。その工場に、技術指導のためウィーンからやってきたのが三十四歳のヨハンさんで、ほどなく二人は恋仲になった、というわけである。彼女の言葉を借りれば、ヨハンさんはべっこう飴あめのように透き通った瞳と、タンポポの綿毛のように柔らかな金髪の持ち主だったらしい。十カ月の指導期間が終わり帰国する時、ヨハンさんは必ず君を迎えに来るから、と約束した。

「けれど、迎えには来なかったんですね」

私は言った。

「まあ、どうして分かるの？」

心底びっくりしたように琴子さんは目を見開いた。

「だって、よく聞く話じゃありませんか。どうせヨハンさんには、ウィーンに奥さんがいたんでしょ」

「まああなた、お若いのに読みが鋭いわ。あなたのように賢い方が同じお部屋で、私本当に運がよかった」

琴子さんは一人うなずき、まだ他に何かいいものはないかと再びカバンの中を探りだした。私は愛想笑いを浮かべ、もらった

チョコレートバーを嚙かじった。

ならば裏切られたことになるのに、琴子さんは恨みに思っている様子はなかった。

問一 傍線部①～③の本文中における意味として最も適切なものを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 心浮き立つ

- ア わくわくして期待をふくらませる
- イ 心が乱れて騒がしい
- ウ 不安で落ち着かない
- エ そわそわして気持ちが上がずる
- オ 知らない人同士で緊張している

② あれこれ詮索される

- ア 思いつきで質問される
- イ 勝手に想像される
- ウ 疑問を投げかけられる
- エ 厳しく追及される
- オ 細かいところまで尋ねられる

③ 対をなすかのごとくに

- ア 対照的であるかのように
- イ 対面しているかのように
- ウ 一組のものであるかのように
- エ 対象を作るかのように
- オ 正反対のものであるかのように

問二 傍線部(a)「初めての海外旅行という以外、私たちに共通点はなさそうだった」とあるが、それはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ウィーンの旅六日間参加者の中で、単身者は私と琴子さんの二人だけであったために意気投合し、二人とも初めての海外旅行で、期待と不安が入り交じた気持ちを分かち合った。

イ 私と琴子さんは海外旅行に初めて参加する者同士ではあるが、琴子さんは六十代半ばで年齢も異なり、旅の話題や興味のあることを共有することは難しいと感じられた。

ウ 私と琴子さんが参加した初めての海外旅行は、ウィーンの旅六日間・フリープランタイプであり、自由行動なので一緒に行動する義務はなく疎遠な人間関係だった。

エ 初めての海外旅行に参加した六十代半ばの琴子さんは、高揚した気持ちを抑えきれず、私との会話に何とか共通点を見いだそうとしていた。

問三 傍線部(b)「うつむいたまま琴子さんがつぶやいた」とあるが、琴子さんのどのような心情を表しているか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私が手際よく出かける支度をしているのを見て、自分はなかなか準備ができない焦りを感じ、掌にホテル名を書いてもらうまでは何としてでも引き留めたい気持ちに駆られている。

イ 私と同じ部屋になったものの、琴子さんは年齢の離れた私に対して苦手意識を持ち、視線をそらしてできれば話したくないという拒む気持ちを抑えている。

ウ 私が出かける支度をしているのを見て、琴子さんは自分もこれから見知らぬ街に出かける不安を抱え、私に頼みたいことがあるが、なかなかそれを言い出せずに躊躇ちゅうちよしている。

エ 琴子さんは迷子になってホテルに帰れなくなったら困るという不安を抱き、出かける準備をしている私の同情を引こうとして、ずるがしこい手法で何とか私を思い通りに動かしたいと企んでいる。

問四 傍線部(c)「そんなことを知りたかった訳でもないのに……すべての間違いの始まりだった」とあるが、「すべての間違いの始まり」とはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朝からウィーンの旅を楽しむつもりでいろいろ計画していた私は、琴子さんがどこへ行くかなど全く興味がなかったにもかかわらず、うっかり琴子さんに行き先を尋ねたことから、思いもよらず道案内をすることになったこと。

イ 単身者というだけの理由でホテルの同じ部屋になった琴子さんとは、できるだけ距離をおいて親しくなりたくなかったが、急に琴子さんから頼み事をされて思わず行き先を聞いてしまい、琴子さんに強引に誘われて拒絶できなかったこと。

ウ 私は初めての海外旅行で心が弾み、琴子さんを部屋に残して一人で観光に出かけたかったが、琴子さんに頼まれて掌にホテル名を書いたことに責任を感じて、一緒に行動することになったこと。

エ 琴子さんの行き先を尋ねた行為を後悔して、琴子さんの依頼を何度も断ろうとしたが、気の弱い性格のために断り切れず琴子さんに同行してウィーン観光の計画がだいなしになったこと。

**問五** 傍線部(d)「昔の恋人、などという……：思いもしなかったので驚いた」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の

ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 未亡人の琴子さんは、ウィーンの旅の他の同行者たちの輪に入らず、一人でいることを好む人物だと考えていたので、過去の人間関係において、昔の恋人のような存在がいるとは思えなかったから。

イ ウィーンの旅に参加した琴子さんは六十代半ばの太った未亡人で、琴子さんの持ち物やホテルの部屋の中での態度から判断すると、昔の恋人に会いに行くとは思えなかったから。

ウ ベッドに置物のように正座してはつきりともを言わずぐずぐずした様子の琴子さんから、ウィーンに来た目的が昔の恋人に会うという夢見がちな乙女のような理由だったと知らされ、意外に思ったから。

エ 養老院で死の床についている昔の恋人に会うために、わざわざウィーンまで来た琴子さんの深い人間愛に触れて、初めての海外旅行に心浮かれている自分との違いを実感したから。

**問六** 傍線部(e)「私はしなくてもいいはずの計算をしていた」とあるが、それはどういうことか。最も適切なものを、次のア～



工の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私は琴子さんと一緒に市電に乗る気持ちはなかったので、往復の電車賃の金額を計算する必要がなかったにもかかわらず、五十シリングを見て、思わず同行した場合の電車賃を考えた。

イ 外国では貨幣の計算が難しく、五十シリングを貰ってもすぐには往復の電車賃が計算できないので、普通だったらしくてもよい計算を何回も繰り返した。

ウ 私は琴子さんを市電に乗せたら一人でウィーンの街を探索するつもりでいたので、琴子さんと二人分の電車賃の計算をする必要はなく、五十シリングをただ眺めていた。

エ 琴子さんが私のポケットに突っ込んだ五十シリングは高額なお金で、それを広げて私は驚き、往復の電車賃に使った後、いったいどれくらいお金が余るか思わず計算した。

問七 傍線部(f)「琴子さんはやれやれこれで安心、……私の腕は放さないままでいる」とあるが、本文では、他にも琴子さんの人物描写の表現の工夫が見られる。それを説明したものととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 琴子さんが、皆の輪から離れて「一人ぼつんと立っていた」という表現には、他の旅行者と気が合わず、旅行先で誰も交流しないという強い意志が感じられ、六十代の未亡人の孤独が浮き彫りになっている。

イ 琴子さんが旅の初日も次の朝も「ベッドの上に正座していた」という表現には、誰に対しても礼儀正しく姿勢を崩さない頑なさがんなさが感じられ、古風な人間として描かれている。

ウ 琴子さんが、私に向けて「力一杯掌を広げた」という表現には、勇気を出して私に頼み事をしようという思いが表れているだけでなく、ホテル名を掌に書いてもらった後にも他の頼み事をしようという周到な考えがうかがわれる。

エ 琴子さんが「ビニールのカバンとお腹の肉を、ぐいぐいとこちらに押しつけてくる」という表現には、私と一緒にバスに乗せようとする積極性が見られ、人間のユーモラスな一面を描いている。

問八 ウィーンの旅の初日から翌日までの間に、琴子さんは私にとってどのような存在に変化したか。八〇字以内で記述しなさい。

二 二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

### 型の二つのイメージ

「型」という言葉を聴くと、多くの学生は、固く締め付けられた窮屈な枠を連想する。「型に従う」とか「型に縛られた」という言葉の通り、自由な動きを<sup>①</sup>セイヤクする、例えば「鑄型」のような、枠組みである。

ところが、同じ「型」という言葉が、ある場面においては、創造性の土台を意味する。型があるからソツ<sup>②</sup>キョウセイが可能となり、型が土台となって初めて自在な動きが可能になる。自由でしなやかな動きをコン<sup>③</sup>テイで支える「基礎・基本・土台」。それは、型の習得プロセスを、<sup>(a)</sup>二つの異なる場面に分けて考えてみれば、理解しやすくなる。

まず、型を習い始める場面である。子どもが型を習う時、型は、外在的なキ<sup>④</sup>ハンとして、子どもを固く締め付ける。型は子どもの内側からは出てこない。外から（大人から・伝統から）、決まり事として、教え込まれる。型は、子どもの自然な身のこなしの延長上に、自然発生的に成り立つのではなくて、その道を進むためには、ともかく習得しておかねばならない規則なのである。

ところが、そのように「押し付けられた規則」に留ま<sup>とど</sup>まっている限り、子どもが型を身に付けたことにはならない。「型が身に付く」とは、もはや、押し付けられた規則ではなくなる。何度も繰り返し返すことによって、型が、自分のからだの自然な動きとなり、その動きが自らの内側から自然に生じるように感じられる、ということは、意識されなくなつて初めて「型が身に付いた」と語られる。

さて、そのように「型が身に付いた」時、その型は、自然な動きを押しとどめない。むしろ動きを促す。より広がりのある動きを促し、より多様な展開を可能にする。

あるいは、型が身に付いた場合、内側から湧き起る勢いに「のる」ことができる。逆に、型がない場合は、身体から湧き起る勢いに振り回されてしまい、そのホン<sup>⑤</sup>ポウな勢いを生かすことができない。

型が身に付くとラクになり、型を意識することがなくなる。「練習は覚えるためにするが、稽古は忘れるためにする」と言われるのは、<sup>(b)</sup> そういうことである。型は、身体の内側から湧き起る勢いに「のる」ための、最も合理的な「からだの理」である。その道の先人たちの知恵の結晶なのである。

**A**、「型に縛られる」という事態が生じる。型が新たな展開にとっては窮屈になる。言い換えれば、今までの型には納まり切らない動きが、内側に育ってきたということである。それまで型によって支えられてきた動きが、それ以上の展開を始め、もはや型の中に納まり切らなくなる時、型が窮屈になり、「型に縛られる」と感じられる。

**B**、「型から離れる」という事態を迎える。もはや型に縛られることなく、型から離れ、より自在な境地に進む。ということ、この場合も、型の習得が最終目的ではなかったことになる。<sup>(c)</sup> 型は、その型を超えてゆく可能性を内に秘めて、習得されるのである。

**C**、こう理解してみれば、型がなぜ「ハプニングに対応する身体を育てる」知恵であったか少しは見えてくる。型は、からだの内側の動きを促すための土台であり、その道の先人たちが様々な経験を重ねる中で最も基本とした「からだの流れ」である。ハプニングに対応するためには、その型を原点として、そこから動き始めるのがよい。

**D**、その型は、新たな動きを開始してゆくためのゼロ地点であるから、動きが混乱する時、そのつど立ち戻るべき原点でもある。あるいはそこから出発することが、最も創造性を豊かに広げる。<sup>(d)</sup> そうした意味において、「型」は、(その「道」における)最も合理的な「からだの理」と理解されるのである。

## 守破離の「離」

ところで、型の習得に際して、「守破離」という言葉が知られている。型を守り、型を破り、型から離れる。しかし「離れる」とはどういうことか。型を破ったうえで、さらに「離れる」とすれば、もはや型を放棄してしまうということなのか。

実は、この「離」は、型を使うこともできるし、使わないこともできる、いわば、自在に使いこなすという意味である。重要

なのは、それまでの型を放棄してしまうのではなく、いつでもその型を使うことができる、しかしそこに縛られるわけではないという点である。

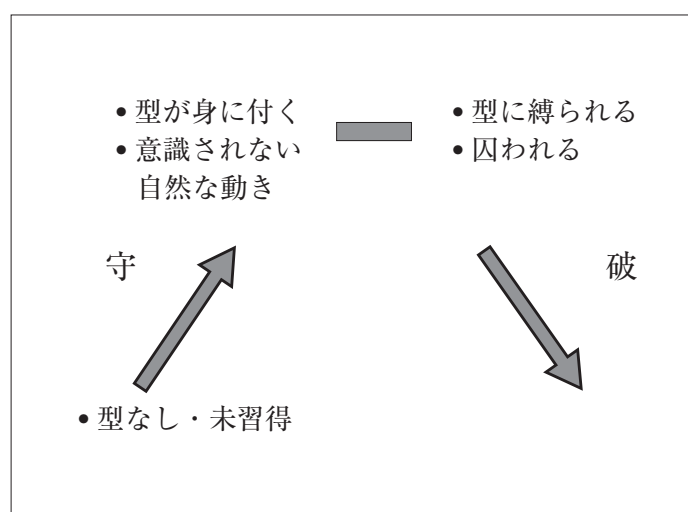


図 I

ここは図 I に沿って見ることにする。

子ども（型の未習得者）が型を習う。何度となく繰り返す中で、型を身に付けてゆき、型が身に付いた時、もはや型を意識することはなく、自然な動きとなる。しかしそれは同時に、その **E** 危険と抱き合わせである。そこで、型を破るといふ。その「破る」方向を進んだ先に「離」がある。

次ページの図 II では再び反転するベクトルとして示される。それは、「離」の出来事が、型を拒否するだけの方向とは異なることを強調している。型を拒否する方向は、既に「破」として示されている。

その「破」の先に生じる「離」は、型を自由に使いこなす。型を使わないこともできるが、使うこともできる。あるいは、あらためて師匠の型に立ち返り、型を、新鮮に味わい直すということがある。あるいは、師匠と対決し、師匠の型から離れ、自分の道を探し求めた結果、師匠の型とのつながりを深く体験し直すということもある。

いずれにせよ、型を放棄してしまうのではなく、使うこともできれば、使わないこともできる。その時その場にに応じて、そのつど自在である。

こうした「離」が、ハプニングに対応する身体である。

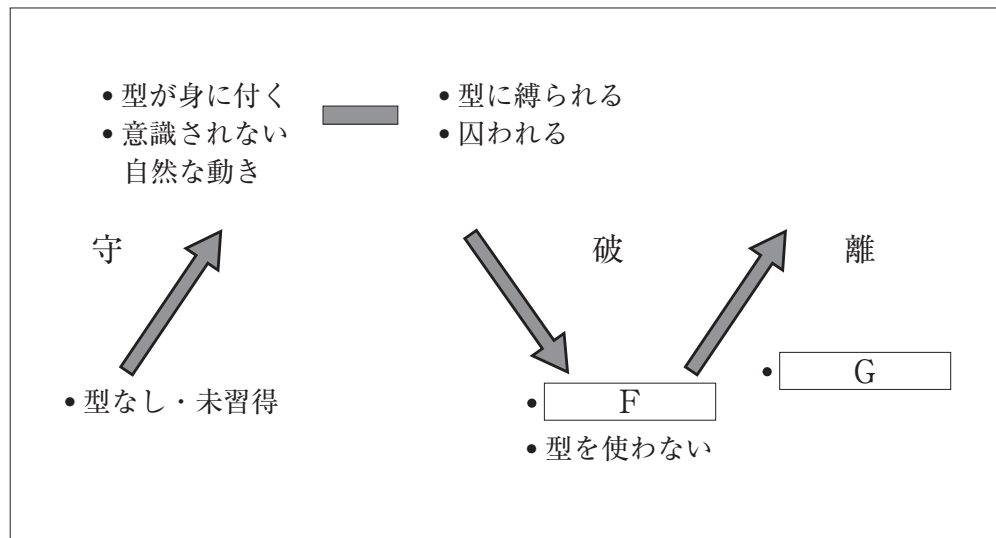


図 II

（西平直『稽古の思想』による。出題にあたって一部を改変した。）

問一 傍線部①～⑤と同じ漢字を含むものを、それぞれ次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① セイヤク

ア セイヒンの質を向上する。

イ 憲法をカイセイする。

ウ 新しいセイフクを着る。

エ 市長がシセイ方針を発表する。

オ 書類をセイりする。

② ソツキヨウセイ

ア 家屋のキヨウセイ撤去に踏み切る。

イ 姿勢をキヨウセイして演技する。

ウ 化学にキヨウミを持っている。

エ 久しぶりにコキヨウに帰る。

オ キヨウラク的な日々を送る。

③ コンテイ

ア 価格のテイカにつながる。

イ ルールをテッテイさせる。

ウ テイリユウ時間を計る。

工 誤りをテイセイする。  
オ 新企画をテイアンする。

④ キハン

ア 本をハンバイする。

イ 試合はハンソク負けだ。

ウ 被告はコウハン中である。

エ 荷物をハンニユウする。

オ 搜索ハンイを広げる。

⑤ ホンポウ

ア 国のリップポウ機関に所属する。

イ 組織がホウカイした。

ウ 遠くにレンポウが見える。

エ ホウソウに耳を傾ける。

オ キツポウを受け取る。

問二 文中の空欄

A

く

D

にあてはまる言葉の最も適切な組み合わせを、次のアくエから一つ選び、記号で答えな

さい。



- ア A—さて B—あるいは C—ところが D—したがって
- イ A—ところが B—そこで C—さて D—しかも
- ウ A—しかし B—したがって C—さらに D—そのため
- エ A—そこで B—しかも C—ところが D—つまり

問三 傍線部(a)「二つの異なる場面に分けて考えてみれば」とあるが、「二つの異なる場面」とは何か。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

の ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもの成長過程における自然な身のこなしの延長線上に、型の習得プロセスを位置づける場面と、大人から厳格に教え込まれ、規則として押しつけられる稽古の場面
- イ 大人から決まり事として型を教えられるのではなく、子どもが自発的に型を習い始める場面と、伝統的な継承を通して、型が子どもの自然な動きとして身に付いた場面
- ウ 子どもの意志を無視して、大人の側が厳しく教えて型を習得させる前半の場面と、型の繰り返しが生かされた子どもの自由闊達な動きを促進し、やがて無限の可能性をもたらす後半の場面
- エ 子どもの内側からではなく、大人によって外側から規則として型を教え込まれる習い始めの場面と、決まり事の型を何度も繰り返してからだの自然な動きとして型が身に付いた場面

問四 傍線部(b)「そういうことである」とあるが、「そういうこと」が指し示す内容として、最も適切なものを、次のア～エの

中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 瞬発的にからだ動くように技を鍛え、その技を身体に覚え込ませるために何度も練習することと、覚えた型を忘れて新しい型を身に付けるために繰り返して稽古することは違うということ。

イ 練習は技術の向上を目的として身体に覚え込ませるために行うが、稽古は型を繰り返すことで無意識にからだを使うことができるとなるということ。

ウ 練習は何度も繰り返して技を覚えることを目標にしているが、稽古は伝統芸能を継承するために型の繰り返しと忘失を重要視しているということ。

エ 目標とする技を身体に覚え込ませるために繰り返して練習することと、型を身に付けるために忘れて覚えたりすることを繰り返す稽古は同じであるということ。

**問五** 傍線部(c)「型は、その型を超えてゆく可能性を内に秘めて、習得されるのである」とあるが、それはなぜか。最も適切な

ものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外から教え込まれた型は、それが身に付くと型から意識的に離れるようになり、予想外の革新的な動きをもたらすから。

イ 外在的な決まり事としての型は、やがて窮屈になって、新しい展開を求めて別の型に向かって突き進んでいくから。

ウ 自然に身に付いた型は、外側から縛られることなく、内側に納まりきらない超越的な動きを展開するから。

エ 決まり事のある型は、習得の過程で型から離れ、その規則を超越して自由に展開する要素を含んでいるから。

問六 傍線部(d)「そうした意味において……理解されるのである」とはどういうことか。五〇字以内で説明しなさい。

問七 文中の空欄  に入るべき語句を、図Ⅰから読み取って答えなさい。

問八 図Ⅱの空欄 、 について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 空欄  には次の言葉が入る。( ) にあてはまる語句として、最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

型に ( ) ( )

ア 締め付けられる

イ 縛られない

ウ 振り回される

エ 立ち返る

オ 押し付けられない

(2) 空欄  に入るべき言葉を二〇字以内で答えなさい。





国語 解答用紙

一	
問六	問一
問七	問二
問八	問三
問九	問四
問十	問五

受験番号
氏 名

二		
問八	問二	問一
		①
	問三	②
	問四	③
	問五	
	問六	
	問七	

二

三					
問八	問七	問六	問三	問二	問一
(2)	(1)				①
			問四		②
			問五		③
					④
					⑤

計

三

※この欄には何も記入しないこと。

一